

# 8時間で自動変換

3Dデータから試作金型を作るのに、従来の手動作業では約160時間かかっていた。同社はこれを約8時間に短縮できる。価格は同Zが3万1500円、同Xが2万1000円。CAE（コンピュータ解析）ソフトウェア「TSV Solutions」とセット提案。初年度10万契約、売上高5000万円を目指す。

テクノスター（東京都港区、立石勝社長、03・6434・9577）は、製造業の設計工程で、試作金型のスキャンデータを3次元CADデータに自動変換できるリバースエンジニアリング機能「TSV Reverse」を7月に発売する。リバースエンジニアリング作業は

通常、技術者が手動で約160時間かかる。同Zはこれを約8時間に短縮できる。価格は同Zが3万1500円、同Xが2万1000円。CAE（コンピュータ解析）ソフトウェア「TSV Solutions」とセット提案。初年度10万契約、売上高5000万円を目指す。

東京大学先端科学技術センタの鈴木宏正教授の研究成果を製品化した。同Zは試作金型を3Dスキナーや産業用CT装置で撮影したスキヤンデータのみで3Dソフトの精密な表現方法であるトリム曲面を用いてCADデータに自動変換できる。同Xはスキヤンデータから作成した点群（STL）データと設計時のCADデータを入力すると、自動で曲面を生成し、再度、CADデータに変換する。点群データとの表面誤差を0.1ミクロン以下に抑えられる。自動車部品などは設計時のCADデータから試作金型を作り、問題点を反映させた上で、再度、CADデータを作り直す。このリバースエンジニアリング作業に時間がかかることが、設計時の負担になっている。